

# ぴっころ

～子育て支援センターには楽しいことがいっぱい～



## 揖斐川子育て支援センター

揖斐川町上南方193 TEL23-1136  
開館日 月曜日～金曜日・第3土曜日  
9:00～16:00

※揖斐川子育て支援センターは、子育て中のお父さん、お母さん、妊婦さん、おじいさん、おばあさんどなたでも利用できる場所です。気軽にお出かけください。

- ◆通信ぴっころを中旬に発行しています。  
図書館・公民館・保健センター・役場・振興事務所などに置いてあります。
- ◆ホームページ 揖斐川町 <https://www.town.ibigawa.lg.jp>  
揖斐幼稚園 <http://www.ibi-youchien.ed.jp>

### ◎幼稚園のなかよしタイム(園庭開放)

1月12日(水)・26日(水)  
各幼稚園へお問い合わせください

### ◎揖斐幼稚園の開放日

1月19日(水)  
直接幼稚園へお申し込みください。  
☎22-6008(当日可)

【1月の活動予定】 行事の申し込みは、前月第3水曜日より実施日前日まで受付けています。(電話予約不可)

日	月	火	水	木	金	土
						1 元旦
2 休館	3 休館	4	5	6	7	8
9	10 成人の日	11	12 出前保育 いび幼稚園	13 りんご交流	14	15 開館日
16	17 育児相談 いちご交流	18 出前保育 清水公民館	19 教えてドクター	20	21	22
23	24 育児相談 さくらんぼ交流	25 子育てと仕事の両立したい 方のためのハローワーク	26 ひよこ交流	27 お話ルーム 誕生会	28	29
30	31 育児相談 英語で遊ぼう	行事等、中止になる場合もありますので、 お気軽にお問い合わせください。				

子育て支援センターは、子どもに関する(0～18歳未満)あらゆる相談窓口です。  
一人で悩まないで気軽にご相談ください。

## 子育てちゃんねる

### ～子どもの体ケアと対策～

どうして鼻水が出るの?・・・鼻水は、体を守るために大切な働きをしています。呼吸をすることで鼻にはさまざまな異物が侵入しようとしています。鼻毛が大きな異物の侵入を防ぎますが、小さな異物が入り込んでしまい鼻粘膜に付着すると、それらを体外に排出しようとして粘液が分泌されます。これが鼻水です。

鼻水はアレルギーが原因の場合や花粉症の場合があります。鼻水を放っておくと、喉まで入って咳の原因になったり、副鼻腔炎や中耳炎などの二次感染につながることもあります。大変でもこまめなケアで取り除くことが大事ですね。風邪をひきやすい季節、まだ小さいと自分でかめないのが大人がこまめに拭きとってあげましょう。子どもには「鼻はすすらず、かむ」ことを伝えましょう。



揖斐川町は、住民の皆さんの子育てを応援しています。  
～子育て支援センターの紹介～

## おさんぽ会 谷汲地区「すめらぎの森」

「すめらぎの森」へ散歩に出かけました。吹く風がとても心地よく、木の実を見つけて拾ったり、葉っぱを集めたり、周りの様子が気になり何度も立ち止まりながら、のんびり歩いて回りました。ベビーカー、おんぶ、抱っこだった子ども達も上手に歩けるようになり、自分から木製遊具で遊ぼうとする姿など、子ども達の成長を感じたおさんぽ会になりました。



## いっしょに園キッズ！

### 『チャレンジタイム』やってみたい

#### 組合立養基保育園

養基保育園では、いろいろな運動遊びに挑戦するチャレンジタイムという時間があります。各年齢に応じた、縄跳び、竹馬、一輪車、フープ回し、うんてい、登り棒等に取り組んでいます。

年長児は縄跳びに挑戦します。初めから縄を回して跳ぶのではなく、縄を持ってみる(持ち方を知る)、縄を回す(手首を回す)といったことから始め、保育者と二人で跳んでみたり、向かい合って縄を一緒に回したりして、回しながら跳ぶ感覚を身につけていきます。跳べるようになると「先生、数えて」「もう30回跳べるようになった」とうれしそうなお声が聞かれます。そこで、「100回跳べるように頑張ろう」とクラスみんなで相談し、目標を決めました。目標が決まると、チャレンジタイムで保育者に数えてもらうだけでなく、「家でも練習したい」という子も出てきて、毎週金曜日に縄跳びを持ち帰り、家庭でも取り組むようになりました。その結果、最近では、毎日の取り組みで目標の前跳び100回を達成できる子も出てきました。目標が達成できた子は、まだできていない子に「こうやって回すといいよ」とコツを教える姿もあります。なかなかできなくて悔し涙を流す子もいますが、諦めずに挑戦しています。

こうして目標に向かって粘り強く取り組む力は、これから社会に出たときに、困難なことが起こっても自分を大事にし、生きていくことができる力につながっていくのではないのでしょうか。私たちは、子どもの意欲を大事にし「やりたい」「やってみよう」という気持ちを引き出せるような活動を存分に保障するような保育をしていく必要があると考えています。

次は何にチャレンジするのか？ 楽しみです。

